



人権教育の指導実践例

(1) 人権教育上のねらい・視点・配慮

- ※ 各人権課題別に年間指導計画や指導案への記入の参考となるよう「人権教育上のねらい・視点・配慮」を例示した。
- ※ 「人権教育上のねらい・視点」は各校の年間指導計画作成に、「人権教育上の配慮」については授業づくりにも活かしていく。
- ※ 普遍的な課題については、小・中学校に「生命尊重」、高等学校では、「人間関係づくり」を示した。

(2) 指導実践例

- ※ 小学校、中学校、高等学校別に人権課題別の取組例となるよう指導例を例示した。

1 小学校の例

(1) ねらい・視点・配慮

人権課題

普遍的な課題「生命尊重」

ねらい	視点	配慮(教科等)
<p>生命のすばらしさや尊さを自らが体感することで、生命あるものを大切にします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さを知り、かけがえのない自分の命を大切にすることを理解する。(知識) ・生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し、大切にしようとする態度を養う。(態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝元気に起きておいしく朝食が食べられる、学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる等の日常生活から、自分が「生きている証」や「よろこび」を実感し、生命の大切さを自覚できるようにする。(学活・道徳) ・自分の誕生や生育の過程、病気やけがをしたときの様子などを思い浮かべることにより、生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようという心情を持たせる。 <p>【人権感覚育成プログラム2-②の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動植物とふれあう体験や飼育、栽培を通して、それらが生命を持っていることや、成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。(生活・学活・道徳) <p>【人権感覚育成プログラム2-①の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に見られる動植物を取り上げ、調べたり観察したりする活動を通して、生物を愛護する態度を身に付けさせる。(理科) ・魚の卵から孵化、成長するまでの学習を通して、生命のすばらしさを理解し、尊重しようとする態度を身に付けさせる。(理科) ・生命は続いていることに気付かせるとともに、生命を尊重する態度を身に付けさせる。(理科)
<p>生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さを知り、自分の命を大切にすることや、みんなの命を大切にしていこうとすることがどういうことかわかる。(知識) ・自分の命を大切にし、今を一生懸命に生きていこうとする態度や、他の人と共に力強く生きていこうとする態度を養う。(態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習資料や家族の思いから、人間の誕生の喜びや死の悲しみ、生きることの尊さに気づき、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を持たせる。(生活・総合・学活・道徳) ・交通安全指導や避難訓練、病気やけが、薬物乱用防止の学習を通して、自分の命を守ろうとする態度を養う。(学活・学行・体育) ・読み物資料から「命」や「生きる」ということを読み取り、一生懸命に生きていこうとする自分の考えを持たせる。(国語・道徳) ・戦争や平和に関する体験談や資料から、戦争で多くの命が失われたことを知り、平和の大切さや命の尊さに気付かせる。(社会)
<p>自他の生命を尊重し合う存在としての家族とその一員である自分に気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や成長には、多くの人の支えがあることに気付くとともに感謝の心を持ち、自分もかけがえのない存在であることを理解する。(知識) ・家族の一員としての自覚を持ち、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を養う。(態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までの自分をふり返ることにより、自分を支えてくれた人々の存在に気づき、感謝の心を持つとともに、今後の成長に向けて意欲的に生活できるようにする。(生活・総合・道徳) <p>【人権感覚育成プログラム3-①の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活行動目標を立て、その目標に到達できるように生活する中で、家族の一員としての役割を果たすことの大切さを実感させる。(家庭科)

ねらい	視 点	配 慮（教科等）
<p>高齢者に対する理解や介護・福祉の問題等の課題に対する理解を深め、高齢者に対する尊敬や感謝の心を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者とのふれ合いを通して、豊かな経験や技術について学ぶと共に、高齢者の願いや思いについて知る。 (知識) ・様々な活動を通して高齢者と積極的にかかわりを持つ。 (態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃん、おばあちゃんから昔の遊びを学んだり、交流を図ったりすることにより、高齢者の豊かな経験や生き方にふれさせ、思いや願いについて理解を深めさせる。 (生活・総合) ・高齢者と一緒に給食を食べる等、様々な活動を通してふれ合い、高齢者の思いや願いについて理解させ、楽しい思い出をつくらせる。 (生活・総合・学行・学活) ・地域の方を講師として招き、いろいろなことを教えていただくことにより、高齢者の豊かな経験や生き方を学ばせる。 (生活・総合・学活)
<p>共に豊かに生きる社会づくりを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者とのふれ合いを通して、優しさ、たくましさを感じ取り、温かい心で接することの大切さに気付く。 (知識・技能) ・高齢者団体や社会福祉施設等の様子を知り、その活動に積極的にかかわる。 (態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や伝統の大切さ、先人の努力を知り、自分の郷土を愛し、先人を尊敬する心を育てる。 (道徳) ・日本の文化や伝統を大切にしてきた高齢者の努力を知ることにより、高齢者への感謝の気持ちを育てる。 (総合・社会) ・先人の残した開発の仕事や現在進められている開発の様子を理解させ、開発に伴う関係者の苦心や人々の願いについて考えさせる。 (社会) ・人の生き方や思いにふれ、自分自身の生き方をふり返り、共に生きる心を育てる。 (総合) ・介護・介助体験を通して、高齢者との交流を図り、共生社会の実現に向けた実践的な態度を養う。 (総合)

ねらい	視 点	配 慮（教科等）
<p>障害者が生活する上で、社会には様々な障害や障壁があることに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等を通して、障害者が生活をする上で何が障害や障壁になっているかを知る。 (知識) ・それぞれの障害の状況を知り、バリアフリーの必要性と障害者の自立への願いや思いについて理解を深める。 (知識・技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子やブラインドウォーク等の体験を通して、障害者が生活する上で障害や障壁になっていることについて理解させる。 (総合) ・点字や手話の学習や体験を通して、障害者とのコミュニケーションの方法を理解させる。 (国語・総合) 【人権感覚育成プログラム9-②の活用】 ・地域には障害者のためにどのような施設があるのかを調べることにより、社会にある様々な障壁をなくすために、障害者の生活を支援する大切さや必要性について考えさせる。 (総合) ・障害者との交流を通して、相手の立場になって考えることの大切さや、障害者の思いや願いについて考えさせる。 (総合)
<p>ノーマライゼーションの理念に基づいた社会づくりについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の思いや願いから、自立することの大切さを知り、お互いに認め支え合う。 (態度) ・状況に応じて障害者を支援できる技能を学ぶ。 (知識・技能) ・自分の周りにある、障害者に対する差別や偏見をなくすためにはどうしたらよいかを考え、行動する。 (態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の思いや願いを知ることにより、相手の身になって温かく接し、行動できる大切さについて考えさせる。 (道徳) ・障害者の思いや願いについて話し合うことによって、誰に対しても温かな心を持ち、相手の立場になって思いやりの気持ちを持って接していくことの大切さを理解させる。 (道徳) ・体験学習を通して、障害者の個々の状況に応じて支援できる技能を学ばせる。 (総合) ・自分の住んでいる町の様子や税金の使われ方を知ることにより、障害者にやさしいまちづくりが進められていることを理解させる。 (社会) ・障害者の体験談を聞いたり、身の周りの出来事を話し合うことで、障害者に対する先入観や偏見の不合理性に気付かせる。 (道徳)

ねらい	視 点	配 慮（教科等）
<p>同和問題を自分たちにとって身近な問題としてとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同和問題の歴史的経緯等を正しく理解する。（知識） 基本的人権について理解し、偏見や差別意識に潜む不合理性に気付く。（知識・技能） 日常生活の中で差別に気付き、それを許さない生き方を身に付ける。（態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 百姓や町人とは別に身分上厳しく差別されてきた人々が、様々な制限や差別を受けながらも、自分たちの相互扶助の伝統を大切にしながら、生産と労働に携わりたくましく生き抜いてきたことを理解させる。（社会） 解放令が出され、形の上では四民平等になったが、実際には差別は解消されなかったことを理解させる。（社会） 全国水平社が差別に苦しんできた人々によって創立されたこと、今なお、差別が残されていて部落差別の解消が国民の課題であることをとらえさせる。（社会） 迷信、不合理な偏見や差別意識等に流されることなく、私たち一人一人の正しい理解と認識を深めていくことが大切であることに気付かせる。（学活） 基本的人権について理解し、差別を許さない生き方を身に付けさせる。（社会）
<p>社会の中にある不合理な偏見や差別をなくしていくことのできる生き方を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳および本質的平等についての理解を深める。（知識・技能） 様々な困難に負けることなく、たくましく生きていく態度を身に付ける。（態度） 差別をなくす取り組みについて理解し、それを自分の生活に生かす態度を身に付ける。（態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人の心に潜在する偏見や差別意識、部落差別の不合理性に気付き、偏見や差別をなくしていく態度を身に付けさせる。（学活） 同和問題解決に向けた実践的な発表を取り上げ、様々な困難に負けることなく、たくましく行動した姿に共感させる。（学活） 差別をなくす運動など人権を守る取組について理解し、自分の生活に生かすことができるようにさせる。（学活）

(2) 補足資料 身分制度の学習を指導する際の留意事項

～小・中学校社会科（歴史学習）における同和問題学習の扱いについて～

同和問題学習では、江戸時代の身分制度、明治時代の解放令、大正時代の水平社運動などの事例を取り上げ、その歴史的背景を正しく理解させることが重要である。特に、小・中学校社会科における江戸時代の身分制度の学習は、同和問題学習への入り口でもあり、児童の発達段階を考慮した指導を行うことが大切である。以下、指導する際の留意事項等について示す。

1 同和問題学習のねらい

【小学校】同和問題の科学的認識の基礎を育てる。

【中学校】同和問題についての科学的認識を深め、その解決への意欲と行動力を身に付ける。

2 同和問題学習を指導する際のポイント

◆明るい展望に立った同和教育の推進を心がける。

(1) 同和地区の人々が世の中を支える仕事や伝統文化の継承に貢献してきたことを取り上げる。

(2) 厳しい差別の中でも協力し合い、差別に負けずたくましく生きてきたことをわからせる。

(3) 差別の厳しさや悲惨さを強調する授業にならないよう注意する。(授業を受けた子どもたちに、同和地区に対する偏見が残る危険性がある)

3 身分制度の学習における指導事項及び、同和問題学習に関する留意事項

学 校	小学校第6学年社会科	中学校社会科（歴史分野）
単元(時間)	徳川家光と江戸幕府（6時間）	江戸幕府の成立と鎖国（4時間）
ねらい	徳川家光の業績（参勤交代・鎖国等）を通して、武士を中心とする身分制度が確立し、江戸幕府の政治が安定したことを理解する。	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の特色を考え、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。
指導すべき内容	○武士・百姓・町人等の居住地や生活の様子。 ○差別をされてきた人々を含む、その他の身分の人々について ○年貢等の税負担について	○身分ごとの居住地や生活の様子、町や村の自治の仕組 ○税の仕組 ○「えた」「ひにん」身分の人々の生活の様子について
指導する際の留意事項	◆「えた」「ひにん」身分の呼称は、小学校では教えない。 ○差別されてきた人々について、以下のような例をあげ、これらのことで社会を支える役割を担っていたことをわからせる。 ・主に農業を営み、年貢を負担していた。 ・手工業を営んだり、芸能を営み、伝統的な文化を伝えてきた。 ・治安の維持を担う仕事をしていた。	◆「えた」「ひにん」身分の呼称は、ひらがな表記にする。 ○以下のような例を示し、「えた」「ひにん」身分の人々は、社会を支える役割を担っていたことを理解させる。 ・「えた」身分は農業に従事し、年貢を納めていた。また、農業の他に、皮革業、雪駄業などの手工業にも従事したりしていた。 ・「えた」「ひにん」身分は犯罪者の捕縛の役を果たす者、芸能に従事する者もいた。 ・これらのことで、社会の治安を守ったり、伝統的な文化を伝えてきた。

(3) 指導例

① いきものとともにだち 1年・生活科（生命尊重）

第1学年 生活科学習指導案

【人権感覚育成プログラム2-③の活用】

1 単元名／いきものとともにだち

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(7)「動植物の飼育・栽培」を受けて設定したものである。1年生は、入学してからしばらくすると、上級生から学校の様子や遊具の使い方を教えてもらったり、学校探検をやったりして、少しずつ学校生活にも慣れてくる。休み時間になると元気に校庭に飛び出し、遊具で遊んだり活動が活発になってくる。そんな中で、うさぎやにわとりに興味を持ち、飼育小屋に足を運ぶ子も出てくる。

反面、子どもたちのあそびや生活様式などが変化し、他者と直接的に関わるよりもゲーム機などによるバーチャル体験が好まれる傾向がある中で、リセットできるゲームなどの影響で「人間は死んでも簡単に生き返る」と思い込むようになるなど、生命の大切さが実感できない子どももいる。

そこで、小さな動物とふれあう体験をさせることで、その鼓動やぬくもりなどの「生きている証」を実感させ、生命あることの喜びを見いださせるなどして、自分のもとより、生命あるすべての生きものとふれあいたいという意欲を出発点に、活動をスタートさせたい。

3 小単元の目標

- (1) 動物に関心を持ち、それらを大切に扱うことができる。
- (2) 動物にじかにふれたり世話をしたりしながら、動物たちも自分たちと同じように命をもっていることに気付く。

4 小単元の活動計画（2時間）と評価規準

時	主な学習活動	主な評価規準		
		関心・意欲・態度	思考・判断	気付き
1	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎにじかにふれたり、餌をやったりしながら、うさぎに適切に関わる。 ・うさぎと遊びながら、その温かい感触を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎと楽しく遊んだり、えさをやったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの側に立って考えて遊んだり餌をやったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎのからだの特徴や生態に気付くことができる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの喜びそうな行動を実践してみる。 ・飼育小屋の掃除をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育係の上級生の手伝いをしたり、動物の世話をしたりしようとしている。 (行動・発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育係の上級生と協力したり、動物が生活しやすい環境を考えて世話をしたりすることができる。 (行動・発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・世話をする活動を通して動物たちが一生懸命生きていることや、その命の大切さに気付いている。 (行動・発言)

5 人権教育上のねらい (普遍的な課題「生命尊重」)

生命の尊さを自ら体感することで、生命あるものを大切にする。

6 人権教育上の視点

- (1) 生命の尊さを知り、かけがえのない自分の命を大切にすることを理解する。 (知識)
- (2) 生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し、大切にしようとする態度を養う。 (態度)

7 本時の学習活動 (1/2)

- (1) 目標
 - うさぎと楽しく遊ぶことができる。
- (2) 評価規準
 - ① うさぎと楽しく遊んだり、えさをやったりしようとしている。 (関心・意欲・態度)
 - ② うさぎの立場に立って考えて、遊んだり、えさをやったりすることができる。 (思考・判断)
 - ③ うさぎのからだの特徴・生態に気付くことができる。 (気付き)

(3) 展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動	指導上の留意点	☆評価	時間
導入	1 本時のめあてを知る。 うさぎといっしょにあそぼう。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がうさぎとふれあうことができるように飼育小屋(えさ、すみか)の場を用意する。 ・「遊ぶ」というと自分が楽しむことを第一に考えるが、ここでは「うさぎ」が喜びそうな行動を、ふれあいながらさがしてみようとする。 		3
展開	2 うさぎと遊んだことのある児童の体験を聞く。 3 動物たちの願いを聞こう。 獣医さん(ゲストティーチャー)の話聞く。 小動物とのふれあいで「してはいけないこと」「しなければならないこと」を聞く。 4 むいぐるみと本当のうさぎの違いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎと遊んだり、えさをやったりする。 ・だっこをする。 ・あたまをなでる。 ・からだをさわる。 ・えさをあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎと遊んだ活動の中で抱いた思いや気付きを聞き、生き物への興味・関心を高める。 ・獣医師の動物の健康診断の話から、適切な関わり方への関心を高める。 ・獣医師の話をしっかり聞かせ、動物にも自分たちと同じような感情があることに気付かせる。 ・命のあたたかさに気付かせたい。 ・「うさぎ」が喜ぶふれあい方を発見できるような場を設定をする。 ・上手に抱っこしている児童を見つけ、抱っこの仕方を紹介する。 ・児童自らがえさをやれるように、各自にえさを持たせる。 ◎うさぎ(相手)の気持ちを考えることの大切さに気付かせる。 ・「一緒に遊ぶ」体験活動の中で、「むいぐるみ」とは違い、生きているものには 		3 2

展 開		<p>「いのち」があることを感じさせる。</p> <p>◎うさぎのからだの柔らかさの感触や温かさ、おなかがドクドク動いていることから、生命を持って生きていることを感じとらせる。そして、自分と同じ生命を持っているうさぎを大切にすることができるようにする。</p> <p>☆うさぎに親しみをもち、大切に扱えるようにする。</p>	
	5 感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎとふれあって楽しかったことや気付いたことをふり返らせる。 ・うさぎをさわった感じや温かさの感想を大切にさせる。 <p>◎うさぎも自分たちと同じように生きていることに気付かせる。</p>	10
終 末	6 次時の予告を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎにしてあげたいことやどうするとうさぎが喜ぶかを実際にやってみることを知る。 		

(4) 事後指導

道徳の時間や学級活動とも関連させて、生きているもの（命あるもの）を大切にしていこうとする心情や態度の育成を図る。

8 評価

- ・うさぎとたのしく遊んだり、えさをやったりできる。

② みんな だいすき 2年・生活科（高齢者）

第2学年 生活科学習指導案

1 単元名／みんな だいすき

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(3)「地域と生活」と(8)「生活や出来事の交流」を受けて、設定したものである。小学校2年生になると学校生活にも慣れ、何事にも積極的に取り組もうとする姿がみられる。友人関係の幅も広がり、休み時間等に集団で仲良く遊ぶ姿が見られるようになる。

しかし、少子化や核家族化が進み、一般的に幼児や高齢者など、世代のちがう人々とふれあう機会は多くない。そのため高齢者との交流を、生活科や運動会の高齢者招待等で年間指導計画の中に位置付けている。

ふれあい給食では、高齢者を気づかってじっくりと話をしたり、ふれあったりすることができるよう、事前にヘルパーの方の話を聞き、児童が戸惑うことのないようにしていく。

また、道徳の「こころの花」では、高齢者の立場に立って理解し助け合っていこうとする心情を学習するなど、他の教育活動との関連を図りながらこの単元の学習を進めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 高齢者とのふれ合いを通して、豊かな経験や優しさ、たくましさを感じ取り、温かい心で接することの大切さに気付くことができる。
- (2) 様々な活動を通して、高齢者と積極的にかかわりを持つことができる。

4 単元計画

時	主な学習活動	人権教育上の視点からみた主な評価規準
1	○1年生で行った「昔遊び」をふり返り、ふれあい給食へ向けての計画を立てる。	・高齢者の豊かな経験や技術についてふり返り、尊敬の念をもたせ、ふれあい給食への意欲を持つことができる。
2	○地域に住む高齢者や祖父母とふれあった時の経験を交流する。	・高齢者の思いや願いを考えることができる。
3	○高齢者のヘルパーの方から話を聞き、高齢者の特性や関わり方を体験的に理解する。	・高齢者へ尊敬の念を持って接することの大切さを理解することができる。 ・相手の立場に立って考えや気持ちを想像させ、共感することができる。
4	○ふれあい給食への招待状を作成する。	・高齢者の特性に応じ、文字の大きさや文体を整えることができる。
5 6	○ふれあい給食の準備をする。	・高齢者に喜んでもらうためにはどうしたらよいか、相手の立場に立って十分に考えさせ、話し合うことができる。
7	○ふれあい給食を行う。(本時) ○高齢者の豊かな経験や優しさについて知る。	・高齢者に積極的にかかわろうとしている。 ・高齢者との交流の機会を通じて、高齢者の思いや願いについて理解することができる。 ・高齢者に対して、尊敬や感謝の心を持つことができる。
8	○運動会への招待状を作成する。	・高齢者に積極的にかかわろうとしている。

5 人権教育上のねらい（高齢者）

高齢者との交流の機会を通じて、尊敬や感謝の心をはぐくむ。

6 人権教育上の視点

- (1) 高齢者とのふれ合いを通し、思いや願いについて知る。 （知識・技能）
- (2) 高齢者とのふれ合いを通して優しさ、たくましさを感じ取り、温かい心で接することの大切さに気付く。 （知識・技能）
- (3) 様々な活動を通して高齢者と積極的にかかわりを持つ。 （態度）

7 本時の学習活動（7／8）

- (1) 目標
高齢者と積極的にかかわりを持つことができる。
- (2) 評価規準
 - ①高齢者に積極的にかかわろうとしている。
 - ②高齢者との交流の機会を通じて、高齢者の思いや願いについて理解することができる。
 - ③高齢者に対して、尊敬や感謝の心を持つことができる。

(3) 展開

※活動時間は、4校時から給食終了の時間までとする。

◎人権教育上の配慮

	学習活動	予想される児童の反応	活動への働きかけ ☆は評価
導入	1 本時の目標を確認する。	地いきのお年よりの方に楽しくきゅう食を食べていただこう。	・事前に準備をしたことを想起させ、本時の課題を確認する。
展	2 高齢者について知る。 ・児童が作成した名札を渡す。 ・グループに分かれてお互いに自己紹介をする。	・私の家の近くに住んでいらっしゃるのだな。 ・～が好きなんだ。ぼくのおばあちゃんと一緒だ。	・児童は高齢者と同じ町会ごとにグループ分けをしておく。(児童5名と高齢者1名でグループを編成する。) ・高齢者の方に簡単に自己紹介をしていただく。 ・高齢者に名札をしていただき、名前がはっきりとわかるようにする。
開	3 高齢者の給食を準備する。	・ごはんは少ない方がいいのかな。 ・固い物は苦手と聞いたから、固いものは少なくして、やわらかいものを多めに準備しよう。 ・多いものはないかな。 ・苦手なものはないかな。	◎高齢者の方に食べられる量を伺い、給食の準備をさせるようにする。
開	4 給食を食べる。 ・楽しい話題を心掛けるようにする。	・おかわりはいかがかな。 ・このあいだの町会の盆踊りの話をしてみよう。 ・昔の小学校の様子を聞いてみよう。 ・昔の地域の様子を教えてもらいたいなあ。	・丁寧な言葉遣いを心掛けさせる。 ・高齢者を名前で呼ぶようにさせる。 ◎声の大きさや速さを考えながら高齢者と接するようにさせる。 ☆高齢者に積極的にかかわろうとしている。

	5 出し物をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り方に聞こえるように、大きな声ではっきりと話そう。 ・お年寄りの方は喜んでくれるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を片付けてから行う。
	6 高齢者の方からお話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方が楽しんでくれてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の話を素直に聞き、活動をふり返るようにさせる。 ☆高齢者の思いや願いについて理解することができる。
	7 高齢者を見送る。	<ul style="list-style-type: none"> ・階段をゆっくりと下りよう。 ・荷物を持ってあげようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎高齢者のペースに合わせて歩くことができるようにする。
終末	8 感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことを知っていてすごいなあ。 ・箸の持ち方を優しく教えてもらったよ。 ・また一緒に給食を食べたいな。 ・道で会ったら挨拶をして話しかけてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の高齢者に対する接し方を称賛し、温かい心で接することの大切さに気付かせる。 ☆高齢者に対して尊敬や感謝の気持ちを持つことができる。

(4) 事後指導

道徳の時間をはじめ、他の教育活動との関連を図りながら高齢者への尊敬や感謝の心を育んでいく。

8 評価

高齢者と積極的にかかわることができる。

③ 今、わたしのできること 4年・総合（障害者）

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 単元名 「今、わたしのできること」 ～バリアフリーの地域をめざして～

2 単元について

高度情報化社会の急速な進展によりさまざまな課題が山積みしている時代であるが、福祉の問題は、高齢化の進展に伴って急速な対応が求められている。しかし、日常生活の中で障害者とふれあう機会は少なく、福祉という視点で社会を見ている児童は少ないのが現実である。

そこで本単元では、地域、福祉施設、ボランティアに励む人々と交流をし、その中で障害のある人とふれあう場を持ち、その人の立場になって体験したり考えたりする中で「共に生きることの大切さ」を実感してほしいと考えこの単元を設定した。同じ社会に生きる人間として互いを正しく理解し共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを学んでいくようにさせたい。そして、自分に「どんなことができるのか」という課題をもとに調べ、体験したことを伝え合うことによって考えを深めることができるようにさせたい。さらには、自分たちの住む地域に目を向けさせ他人のことも大切にしていこうとする態度を育てていきたいと考える。そして、「障害＝かわいそう」という心の中の差別や偏見を無くし「共に生きる」ということについて考えさせていきたい。

3 単元の目標

- (1) 障害のある人を支えている人の話を聞いたり、障害のある人と交流したりすることを通して障害や障害者問題について正しく理解し、自分なりの課題意識を持って学習を進めることができる。
- (2) アイマスク、車椅子、手話などを体験することにより障害のある人が住みよい町は、誰にとってもよい町であることに気付くことができ、自分たちができることを考え主体的に取り組むことができる。
- (3) 交流体験活動を通して、一人一人の違いを認め、共に生きていくことの大切さに気付き、人権意識に支えられた実践を進んで行うことができる。

4 活動計画（25時間扱い・本時21／25）

◎人権教育上の配慮

課程	時間	児童の活動	教師の支援
ふ れ る	1	バリアフリーってなあに	
		<ul style="list-style-type: none"> ○今までの経験から、障害のある人とのふれあいについて話し合う。 ・障害者とふれあった経験について ・障害者に対するイメージについて「かわいそう」「大変そう」 ○「バリアフリー」の意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある人と接した経験を問い、その内容やその時の気持ちを思い起こさせる。 ○「バリアフリー」の意味を教え、共に暮らしやすい社会を築くための学習であることを認識させる。 ◎障害のある人も地域と一緒に住んでいることに気付かせる。
		体が不自由ってどんなことだろう	

みつける	10	障害のある人のビデオを視聴しよう	<ul style="list-style-type: none"> ○「この小さな手さえあれば」「ありのままに生きる」を視聴し生き方や考え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害によるさまざまな不便さを知りそれに立ち向かう姿勢、行動力を持っていることに気付くことができるようにする。
		擬似体験を通してバリアフリーを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ○車椅子体験とアイマスクの擬似体験及び介助の体験をする。 ○体験から得た感想や思いを自分が考えていたことなどと比べながら、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーとして社会福祉に携わる人を招く。 ○いろいろな場面を想定し、体験することができる。 ◎障害者が生活する上で障害や障壁になっていることが多くあることを理解させる。
		障害のある人たちとふれ合おう	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある人は、実際にどんなことで困っているのかなど、話を聞いてバリアフリーについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・交流会を計画する。 ・質問事項をまとめる。 ・お礼の手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある人をゲストティーチャーとして招き、自分の生活上の話をしてもらう。 ○日常生活のことや仕事のことで不便なこと施設、設備についての要望などを話していただく。 ◎障害者の思いや願いについて知ることにより、相手の身になって温かく接し、行動ができるように考えさせる。
調べる・まとめる	10	障害者の立場で生活を見直そう		
		わたしたちの住んでいる地域はバリアフリーになっているのか調べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある人のために地域の中ではどのような配慮がなされているのか調査する。 <ul style="list-style-type: none"> ・どこに行って、何を見たり、聞いたりするか計画を立てる。 ・カメラやビデオなどを使って、調査の記録をきちんと残す。 ・報告会の準備をする。 ○調べた結果を報告し、情報交換を行う。 (本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の内容を確認しスムーズに進められるように公共施設やスーパー、レストラン等事前に連絡をとり日程の調整をしておく。 ○安全指導を十分に行う。 ○できる限り仕事の邪魔にならないよう、挨拶や言葉遣い等マナーの指導をする。 ○調べてわかったこと、疑問に思ったことなどの報告を行い問題点を整理させる。 ◎障害がある人との交流を通して他の人の立場になって考えることのできる力をつけ、その思いや願いを考えさせる。

広 げ る 4	わたしのバリアフリープランを紹介しよう	
	<p>○再調査、原因追及、広報活動など、自分で課題をつくり追求する。</p> <p>【予想される活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所に行って、調べてみる。 ・バリアフリーマップを作ってみる。 ・ポスターを作って呼びかける。 ・書き損じはがきや使用済みテレカを集める。 ・手話を覚える。 ・ボランティアサークルに参加してみる。 ・困っている人を見かけたら声をかけるようにする。 <p>○自分の調べたことやプランを発表する。</p>	<p>○個人の追究課題に応じて支援する。</p> <p>○児童から出た要望にはできるだけ応じるようにし、意欲の継続を図るようにする。</p> <p>○表現したことのよさを認め合い、満足感、充実感を味わわせる。</p> <p>◎さまざまな人の存在や自分とのかかわりについて気付いたり考えさせる。</p> <p>◎人の生き方にふれ、自分自身の生き方をふり返り他人のことも大切にして生きる力を育てる。</p>

5 人権教育上のねらい

すべての人々が、互いに理解し合える住みやすい社会づくりについて考える。

6 人権教育上の視点

- (1) 障害のある人たちの立場にたった学習を通して、相手の立場を思いやりお互いを認め合い支え合おうとする。 (知識・技能)
- (2) 自分の周りにいる障害者に対する差別や偏見をなくすためにはどうしたらよいのか考え行動する。 (態度)
- (3) 障害のある人たちと共に生きていく地域で自分ができることは何かを考え実践する。 (態度)

7 本時の学習活動 (21/25)

- (1) 目 標
 - ・わたしたちの住んでいる地域のバリアフリーの状況について、調査した結果をみんなに伝えることができる
 - ・バリアフリーとは、施設だけではなく、相手の立場に立つ心であることに気付くことができる。
- (2) 展 開 ◎人権教育上の配慮

学習活動	教師の支援	資料等
1 本時の活動内容を確認する。		
わたしたちの住んでいる地域のバリアフリーの状況を報告し合おう		
2 各施設のバリアフリーの状況についての報告を聞き合う。 【 レストラン A 】 ◇外のスロープに呼び出しボタンがついていた。 ◇障害者用のトイレもありました。 ◇盲導犬も入れるそうです。	○発表しやすいように、資料や機材を効果的に使用できるようにする。	コンピューター

<p>【スーパーA】</p> <p>◇障害者用の駐車場が3台用意されています。</p> <p>◇エレベーターにも障害者用のボタンがあった。</p> <p>【駅】</p> <p>◇切符売り場に点字があった。</p> <p>◇スロープがあった。</p> <p>◇ホームには点字ブロックがありアナウンスが流れていた。</p> <p>【A 小学校】</p> <p>◇入り口が自動ドアになっていた。</p> <p>◇車椅子に座ったまま飲める水飲み場がありました。</p> <p>3 他の場所はどうであったか、前の施設の様子と比べて報告し合う。</p> <p>【レストラン B】</p> <p>◇車椅子のお客様には、スロープが無いので段差の部分に板をかける。</p> <p>◇盲導犬はお断り。</p> <p>◇新しい店では、障害者用のトイレ手洗いの場所・駐車場が設置されている。</p> <p>【ホームセンター】</p> <p>◇2階に上がるお客様には、業務用のエレベーターを使ってもらおう。</p> <p>【JA】</p> <p>◇「お金さえあれば、すぐにでもバリアフリーにしたいんだが。」と支店長さんがおっしゃっていた。</p> <p>4 本時の報告会で気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。</p> <p>5 次からは、「わかったことを広げる」段階に入ることを知る。</p>	<p>○見たり聞いたりしてきたことをわかりやすく報告できるよう、手順や分担を明確にしておく。</p> <p>○質問したり自分の場合と比較したりして努力や工夫を認め合えるようにする。</p> <p>○友だちの発表を聞き自分にできることを広げたり自分の考えに付け加えたりしようとする。</p> <p>◎自分たちが調べたバリアフリーと比べながら他のグループの発表を聞くことにより、さまざまな施設にバリアフリーのための工夫がされていることを知る。</p> <p>○施設が十分でない所では、どんな工夫やサービスを心がけているのか、聞いたことを発表させる。</p> <p>○施設が充分でなくても障害者にできるだけのサービスをしようとしている地域の人々の心情を感じる。</p> <p>◎同じ人間として互いを正しく理解し共に支え合い助け合って生きていく大切さを学ばせる。</p> <p>○自分たちの住んでいる地域について改めて見直した点やこれから考えていかなければならない点等に気付かせる。</p>	<p>模造紙等各グループごとの調べた資料・カード</p> <p>ワークシート</p>
--	---	--

8 期待される効果

- (1) バリアフリーについて考えることを通して、一人一人の違いを理解し互いに尊重「共に生きる」という気持ちや態度を養い、学校生活をよりよくしようとする意識を持つことができるようになる。
- (2) 障害のある人と障害のない人という考え方ではなく、同じ人として地域社会に暮らしていくことが重要であると考えられるようになる。

④ 徳川家光と江戸幕府 6年・社会科（同和問題）

第6学年 社会科学学習指導案

1 単元名／徳川家光と江戸幕府

2 単元設定の理由

江戸時代も徳川家光の時代になると、参勤交代を制度化して大名統制をさらに強めたり、武士を中心とした身分制度の確立や鎖国の実施などにより、幕藩体制が確立し、江戸幕府の政治が安定する。児童には、徳川家光の肖像画や人物年表、エピソードなどからその業績について調べたり、身分制度や人々の暮らし、鎖国の中での貿易の様子などを、絵や写真などの資料を使って調べることで、この時代の様々な出来事に対する興味・関心を高め、理解を深めていきたい。

特に、武士を中心とする身分制度を確立することは、江戸幕府の政治を安定させるために不可欠のことであり、この時代に武士や百姓、町人といった身分が固定化されていったこと、また、百姓や町人とは別に身分上厳しく差別されてきた人々の存在があったことについても学ばせたい。

3 単元の目標

大名行列や鎖国などに関心を持ち、身分制度が確立して、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、この時代が開いた海外との交流がもつ役割にも目を向けようとする心情を育てる。

- (1) 江戸幕府の政治に関心を持ち、江戸時代の政治や社会について進んで調べようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 江戸幕府が支配体制を強めていったことを、大名統制や身分制度の確立、鎖国などから考えることができる。
(思考・判断)
- (3) 絵画資料や年表、地図、写真、文章資料などの各種資料を適切に活用して、大名統制や身分制度の確立、鎖国などについて調べるとともに、調べたことをノートやレポートに工夫してまとめることができる。
(技能・表現)
- (4) 江戸時代に身分制度が確立し、武士による政治が安定したことがわかる。
(知識・理解)

4 単元の指導計画（6時間扱い）本時 4／6

学習活動・学習内容	具体の評価規準・方法・手だて	
<p>1 大名行列を調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名行列の様子を描いた絵画や地図などの資料からよみ取ったことや、疑問に思ったことなどを発表し、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題 徳川家光は、どのようにして幕府の力を強めていったのでしょうか。</p> </div>	<p>関 大名行列や大名の配置、鎖国の中の交わりなどについて、詳しい資料を収集して調べようとしている。</p> <p style="text-align: center;">＜観察・ノート＞</p>	<p>○家光の政策に関心を持ち、調べる計画を立てるよう促す。</p> <p>△徳川家光の生い立ちなど、人となり伝えるエピソードを紹介し、関心を持たせるようにする。</p>
<p>2 家光が大名をしたがえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武家諸法度や大名配置図、年表などの資料から、家光が大名を従えていった様子をとらえる。 	<p>思 家光による大名統制の意図をより深く考えることができるとともに、鎖国について多面的に考える</p>	<p>○調べ学習が終わり、政策について考えることができた児童には、さらにいろいろな角度からの見方を促す。</p>

	ことができる。 ＜観察・発表＞	△大名配置図をよみ取らせながら、幕府の大名統制について考えさせる。
3 4 〈本時〉人々のくらしと身分 ・ 絵画資料や地図、グラフ、文章資料などから、江戸時代の人々が多様な身分に編成されていたことをとらえる。	知 より詳しい資料を活用して、身分制度の確立の様子がわかる。 ＜発表・ノート＞	○身分制度の確立によって、人々のくらしや生活がどのような変わったかを考えさせる。 △それぞれの資料から、百姓のくらしについてじっくりと考えさせるようにする。
5 キリスト教を禁止する ・ 絵や地図、年表などの資料を活用して、幕府の対外政策の変化を調べ、キリスト教の禁止や鎖国の影響をとらえる。	思 キリスト教がどうして禁止になったのかを考えることができる。 ＜観察・発表＞	○鎖国の歴史的な意味について考えることができるようにする。 △資料を年表と照らし合わせながらよみ取るよう助言する。
6 鎖国の中で交流する ・ 朝鮮通信使や各地からのレポートを調べて、鎖国の中での交流の様子をとらえる。	資 朝鮮通信やそれを迎える人々の様子、各地からのレポートから、交流の様子を考えることができる。 ＜観察・発表＞	○鎖国について多面的にとらえることができるようにする。 △資料のよみ取りを個別指導する。

○おおむね満足できる状況をさらに伸ばす手だて
△おおむね満足できる状況に高める手だて

5 人権教育上のねらい（同和問題）

同和問題について正しく理解する。

6 人権教育上の視点

- (1) 同和問題の歴史的経緯を理解する。 (知識)
- (2) 偏見を助長し、差別を残した要因について思考することができる。 (技能)

7 人権教育上の配慮

- ・ 歴史の教科書や資料集を使い、近世を中心とした被差別部落の歴史的経緯を理解させる。
- ・ 資料等により、厳しく差別された人々のくらしや仕事の様子を知り、厳しい差別の中でもたくましく生き、世の中を支えてきたことを理解させる。

8 本時の学習指導（本時 4／6）

- (1) 目標
江戸幕府の身分制度のもとでの人々の生活について調べ、身分により生活が規制されていたり、差別の中でもたくましく生きていた人々がいたことを理解する。
- (2) 展開

◎人権教育上の配慮

学習活動・学習内容	指導上の留意点（☆評価規準）	資料
1 前時の復習をする。 ・ 様々な身分に分かれていたこと	・ 身分制度のもとでは、身分は固定されて	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士は、学問や武芸に励んでいる。 ・ 百姓は、協力して農作業を行っている。 ・ 職人は、大工のような仕事をしている。 ・ 商人は、商売が忙しそうだ。 	<p>いたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊臣秀吉は百姓身分だったことなどを例に江戸時代以前は身分を変えることが可能であったことをおさえる。 ・ 百姓、町人のくらしぶりをとらえさせる。 	
<p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々の生活について考える。</p> </div> <p>3 いくつかの資料から幕府が身分ごとの支配を強めていったことをとらえ、百姓・町人・厳しく差別されてきた人々のくらしについて調べ発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の85%は百姓で、支配していた武士はわずか7%である。 ・ 身分ごとに住む場所も決められていた。 ・ 百姓は、生活の仕方を細かく決められ、収穫の半分が年貢で、他にもいろいろな仕事をさせるなど、厳しい生活であったが、社会を支え、たくましく生きていた。 ・ 町人は、稼ぎに税はかからないが、いろいろな役目をつとめた。 ・ 身分上厳しく差別されてきた人々は、差別の中でも、さまざまな仕事をしながら税を納め文化を伝えたりして、社会を支えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実態や子どもの意識を十分に踏まえておく。 ・ 「さまざまな身分」の絵から、たとえば、着ている服、仕事の様子など、それぞれの身分によるくらしの違いをよみ取らせる。 ・ それぞれの身分の生活について、資料をしっかりよみ取らせる。 ・ 7%の武士が残る大多数の人々を支配していたことを全員にとらえさせる。そのことから幕府がどのようにして大多数の人々を支配したのか、調べようとする意欲を持たせる。 ・ 幕府や藩の財政は、農民からの重い年貢により成り立っていた。 ・ 身分上厳しく差別されてきた人々は、主に農業を営み、年貢を負担していたこと、手工業を営んだり、芸能を営み、伝統的な文化を伝えてきたこと、治安の維持を担う仕事をしてきたことをおさえる。 ◎厳しく差別されてきた人々は、差別の中でもたくましく生きぬき、社会を支える役割を果たしてきたことをとらえさせる。 	<p>「さまざまな身分」の絵</p> <p>「江戸時代の身分ごとの人口の割合」 「百姓が負担するいろいろな税や役」 「百姓の生活の心得」</p>
<p>4 身分による生活の様子の違いについて考え、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士、百姓、町人、厳しく差別されてきた人々の状況をふまえながら、自分なりに考えをまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の発表を大事にし、しっかり内容をとらえさせる。 ◎授業を通して、身分制度による生活上の様々な制約や厳しい差別に気付かせる。 ◎厳しい身分制度の中でも、人々はそれぞれに社会を支え、たくましく生きていたことをとらえさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆知識・理解 身分制度のもとでの人々のくらしについて、その様子や違いがわかる。</p> </div>	

※P29の留意事項を参考にして授業を実施する。